

講演「薬物乱用の実態について」を傍聴して

船員災害防止協会

調査役 山下 成隆

平成 29 年 3 月 23 日海事センタービルに於いて、船員災害防止協会により開催された安全衛生管理実務担当者連絡協議会での講演「薬物乱用の実態について」（講師：東京都 福祉保健局 健康安全部 麻薬対策担当 腰塚 正幸 様）を傍聴したので会員の皆様に御紹介致します。

私が中学生の頃はシンナー、トルエン、ナロン（鎮痛剤）遊びが流行っており、同級生がシンナー遊びに嵌まって、夏の暑い盛りにラリッたまま、川で泳ぎ溺れ死んだことがあります。

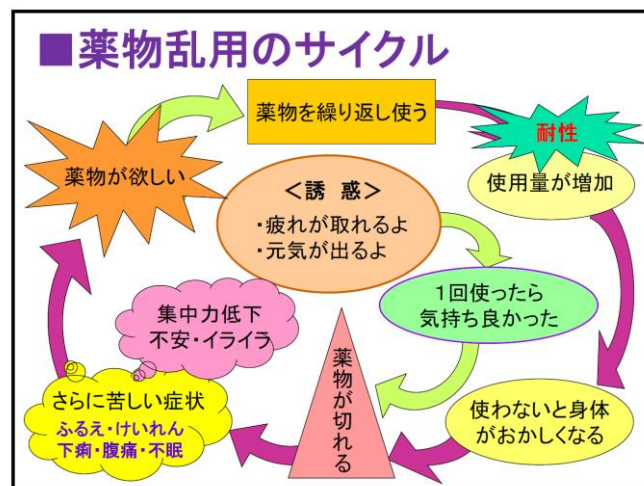
また、学生時代に練習船で寄港した外地で、ヒッピーのマリファナ売人に遭遇した経験もあります。もちろん拒否しましたが・・・・。

薬物使用への導入口は、人それぞれ異なると思いますが、誰でも何処でも誘いの魔の手が迫っていると考えて下さい。TV番組「密着警察 24 時」に登場する人物のように一度嵌まり込むと簡単にはその世界から脱出することが困難になります。人格崩壊、家庭崩壊を招くのを絶対に防ぐ必要があります。

知識を深め「今すぐSTOP！薬物乱用」を推進しようではありませんか。

【講演内容】

1, 薬物乱用のサイクル



1 度でも使用すると、快感を身体（脳）が覚えてしまう。快楽を求めて薬物を繰り返し使用する事で薬物耐性が生じ使用量が増えてしまう。

2，導入への甘言（友人・知人よりの誘いが多い）

- 気持ちがいい。疲れが取れる。自分一人やらないと仲間外れにされる。
- 元気が出る。ハイな気分になれる。嫌なことを忘れられる。好奇心。
- やせる、ダイエットに効く等

3，覚醒剤の与える影響

- 脳が異常に興奮し、一時的に食欲や眠気が無くなるため、痩せ薬や眠気覚ましだといつて乱用される。（一度でも使用すると乱用となる）
- 薬の効き目が切れると、猛烈な疲労感、脱力感におそわれる。
- 心拍数や血圧が上昇し、心不全や不整脈等の急性中毒を引き起こす。死亡する場合もある。
- 注射も吸引（あぶり）も害は同じ。

日本に覚醒剤が蔓延したのは、国民性と戦争中にヒロポンを使用していた名残ではないかとのこと。

4，大麻（マリファナ）について

報道でもご存じの通り、大学生にマリファナが浸透してきている。

大麻（マリファナ）の与える影響（大麻精神病と呼ばれる）

- 何もやる気の無い状態（無動機症候群：抑うつ状態）
- 知的機能の低下
- 精神運動興奮、衝動的行動
- 幻覚妄想、思考の錯乱
- 生殖器官の障害
- 免疫力の低下

米国内でマリファナが合法になっている州がある理由の推測

- 合法化し、州の税収とすることで、薬物密売に関わる犯罪組織への資金流入を防止するため

※最近では、交通事故などが増加し、再議論の対象になっている由。

5，危険ドラッグ（旧脱法ハーブ）とは

乾燥植物片に薬物を混ぜ込んだもの。平成 26 年 7 月 22 日より新呼称は「危険ドラッグ」に変更になっている。現在、警察、都、厚生労働省麻薬取締部の努力により、営業店舗は

全て無くなり、インターネット販売が主流になっている。

包装を工夫し、名称も「お香」などと称し、気付かれぬように潜在化し販売されている事例が多い。TVでも度々放映された出鱈目な運転による事故などのように悲惨な結果に繋がる場合がある。

※その他の薬物は、ヘロイン、コカインから始まり危険ドラッグまで複数存在し、名称を解らないように粉飾している。ここでは、紙面の関係上割愛する。

※処方薬であっても、医師の指示によらない服用・過量服用といった乱用が問題となっている。

【講演を聞き終えて】

船社の多くは ISM Code（国際安全管理コード）に則ったSMS（Safety Management System）を構築、認証を取得しています。その中で麻薬類の船内サーチ、尿検査について規定し、マニュアルで定めている場合もあります。

各室を検査するといっても、どの程度検査するのか？プライバシーの問題はどうするのか？など船内で議論の対象になったことがありました。結局、本人との受け答えで判断し、異常があれば捜索しようとの結論に達しました。（各船社の考え方）

外地向けの船舶では船内に決して持ち込ませない対策が、重要になりますので、不審に思ったときには、海上保安庁「海のものも」118、東京税関（密輸ダイヤル 0120-461-961）などへ通報をお願いします。

各所への☎連絡先を列記します。（都内の場合）

- 1, 警視庁銃器・薬物ホットライン 03-3593-7970
- 2, 東京都夜間こころの電話相談 03-5155-5028（受付時間 1700～2200）
- 3, 警視庁総合相談センター 03-3501-0110（薬物相談・少年相談・少年環境相談）
- 4, 東京都福祉保健局健康安全部薬務課 03-5320-4505（麻薬対策担当）
03-5320-4515（危険ドラッグ対策担当）

メール連絡先及び参考となるホームページ

- 1, 東京都福祉保健局健康安全部薬務課

S 0000607@section.metro.tokyo.jp

- 2, 「今こそストップ！薬物乱用」

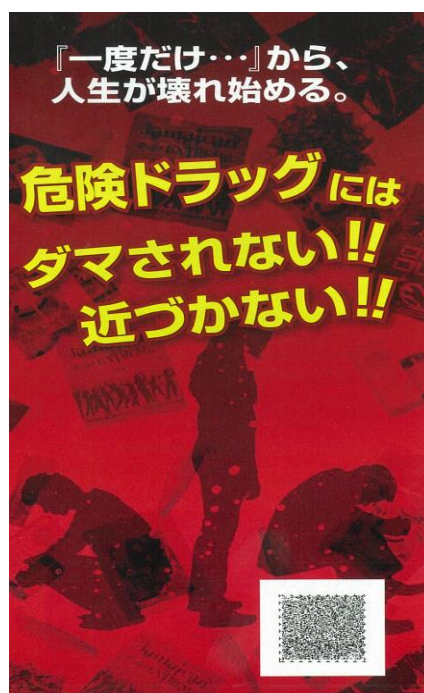
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kenkou/kenkou_anzen/stop/index.html

- 3, 「みんなで知ろう危険ドラッグ」

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/no_drugs/

※東京都が発行しているパンフレットを紹介します。(HPでも閲覧可能です)

※心配事がある、不審に思う時は警視庁銃器・薬物ホットライン、東京都夜間こころの電話相談、東京都福祉保健局健康安全部薬務課へご相談下さい。



【あとがき】

薬物に関しては芸能人、芸術家への拡散、スポーツ界でのドーピング問題など知らぬうちに摂取していることもあるとのことでした。

また、風邪薬などの一般医薬品であっても服用時はインターバル、量を守る必要があると改めて考えさせられました。

最近健康のために、近所の土手を散歩していますが、野良猫に餌やりしているおじさんと話す機会がありました。(身なりも良く、高級車に乗っているので生活困窮者には見えません) 餌やり理由を聞いたところ、手なずけて去勢し、ネコちゃんハウスというNPOに届けているとのこと。これは世話していたホームレスのおじさん(この方は毒まんじゅうを食べた母猫が死んで子猫がしがみついていた可哀想になり子猫の面倒を見ることになったらしい)が亡くなったため、遺言と考えて、代わりに実施している由。世の中には特別な方がまだまだいらっしゃると感じ入りました。

薬物乱用には、人間関係のギスギス感、圧迫感も関係していると考えられます。こんな平和を感じる小さなコミュニケーションの存在する社会であれば、きっと薬物乱用の解消に役立つのかなとも思いました。